

## 資質・能力の視点からの自己理解

1・2年次

### 興味・関心や 適性を深掘り、 将来像を描く

就職指導担当の教師が指導上の問題の1つとして挙げるのが、将来像を描けないまま3年生になる生徒が少なくないことだ。それは、普通科の生徒に限ったことではない。専門高校に勤務するある教師は、「明確な将来の目標を持っている生徒は半数以下。中学校時代に勉強が苦手だったため、周囲に勧められるまま、現在の在籍校に進学した生徒が多く、将来像が描けていない」と、実態を語る。その教師の高校では、将来像が少しでも描けるよう、1・2年生を対象にしたインターンシップや企業説明会を充実させているが、自分の興味・関心や適性を深掘りすることのないまま3年生になり、規模や知名度で志望企業を選ぶ生徒が少なくないという。そこで今回は、社会や企業について知ることに加えて、自分を知るための活動に力を入れていく広島県・広島市立広島工業高校の取り組みを紹介する。

#### 実践事例

### 「社会」と「自分」を知り、つなげる 広島県・広島市立広島工業高校

#### 自分の持つ資質・能力を把握し、 学校生活をマネジメントする

広島県・広島市立広島工業高校では、社会や企業についての理解を深めるため、1年次から社会人や卒業生の話を聞いたり、企業の工場を見学したりする機会を積極的に生徒に提供している。そうした「社会を知る」活動に加えて力を入れているのが、「自分を知る」活動だ。社会人や卒業生の講話を聞いたり、働く現場を見たりする中で理解が深まった実社会と自分をつなげるためには、自分の興味・関心や適性を知ることが欠かせない。

「自分を知る」活動は、「総合的な探究の時間」で行われている。同校では、「進路サポート」(※1)の中のマインドマップを使って自分の興味・関心を深めたり、外部団体が実施する適性診断テストで自分の適性を把握させたりした上で、将来取り組んでみたい社会課題や、上級学校・企業について研究させている。そして、自分が持っている資質・

能力を意識しながら学校生活を送るために、年間を通して生徒が取り組むのが、進路指導部の山川祐也先生が考案した「プランニングシート」と「セルフマネジメントシート」の作成だ(図)。

『人の話を聴く力』『自分で動く力』など、VUCAの時代(※2)を生き抜く上で必要な10の資質・能力を進路指導部で決めました。自分はどうな強みや弱みを持っているのか、どの資質・能力を伸ばすために、どのように直近の高校生活を過ごすのかを、シートを使って生徒自身が考えます」

「プランニングシート」の作成には週に1回、「セルフマネジメントシート」の作成には学期に1回取り組む。そのような頻度にしたのは、自分の強みを発揮できるのはどんな場なのかを日常的に考えながら、社会人講話や工場見学に臨みたいという思いからだ。また、「プランニングシート」で、目先の行事などを通じて身につけたい資質・能力を具体的に意識させることで、生徒の行動目標が、「頑張る」といった曖昧なものから、「帰宅後、○

\* 1 ベネッセの教材の1つで、社会とのかかわり方から、探究のプロセスに沿って進路を考えるための教材。

\* 2 Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (あいまい性)の頭文字を取った造語。

# 変化の激しい社会に飛び込む生徒に伴走

## 図 自分を知り、自分を育てる2つのシート

振り返り日 → 6月 8日 (水) (次回の授業日)

① 「セルフマネジメントシート」から身に付けた力を1つ選んでください。

番号	身に付けた力
4	協力する力

② ①で選んだ力を身に付けるための行動目標（どのようにしていくか）を設定しましょう。最低限1つは実際に行動するのは学校内・学校外どちらでもかまいません。

● 行動目標を立てるときのポイント

- ・達成可能か（難し過ぎず易し過ぎず）
- ・具体的か（いつ、どこで、何をやるのか）

行動目標（どのようにしていくか）

・校内で友人や先生と会う時、必ず自分から先にあいさつをする。

・部活動の準備や片付けの時に、友人に声をかけ、協力して取り組む。

③ 振り返りをしましょう。【達成度】のあてはまる番号に○をつけ、具体的にうまくいったところ及び改善点を書きましょう。

【達成度】

1 (全く出来なかった)    2 (あまり出来なかった)    ③ (少し出来た)    4 (まあまあできた)    5 (かなり出来た)

うまくなったところ	改善点
・あいさつを積極的にすることができた。	・時々あいさつが聞こえていなかったようなので、もっと声を出してあいさつをするように心がける。
・友人に声をかけ、率先して準備や片付けができた。	・友人とおしゃべりに熱中してしまうことがあったので、メリハリをつけて準備や片付けに取り組む。

身につけたい力をどのような行動を通じて身につけるのかを考える「プランニングシート」

○に15分間取り組む」といった具体的なものに変わるという。

**教師が問う「なぜ」に答えながら、自分と社会をつなげる**

生徒が自分と社会をつなげて進路を考えること

番号	身に付けた力	具体的な力	4月					合計	7月				
1	人の話を聴く力	相手の話を聴くことができる。 相手の意見を理解しようすることができる。 質問などをして、相手の思いを引き出すことができる。	1	2	3	4	5	15	1	2	3	4	5
2	理解する力	自分の興味や関心、強み弱みなど、自己理解ができる。 相手の気持ち、個性等を理解することができる。 意見の違いや立場の違いを理解することができる。	1	2	3	4	5	15	1	2	3	4	5
3	自分で動く力	甘い自分に負けず、ものごとに取り組むことができる。 自分の意見を持って、ものごとを選択することができる。 他人任せにせず、自分で率先してものごとに取り組むことができる。	1	2	3	4	5	15	1	2	3	4	5
4	協力する力	あいさつ等、他者と積極的に会話ができる。 他者に協力を頼むことができる。 他者と話し合いながらものごとに取り組むことができる。 こうなるともっと良くなるといった理想を持つことができる。	1	2	3	4	5	15	1	2	3	4	5

自分の強み・弱みのバランスをレーダーチャートで確認しながら、今、自分はどのような力を伸ばすべきなのかを考える「セルフマネジメントシート」

※レーダーチャート作成例  
一番外側の数字は上記の身に付けた力の番号です。各番号の合計点に点を書いて、線で結びましょう。

例)  
1人の話を聴く力 → 10点  
2理解する力 → 8点  
3自分で動く力 → 12点  
4協力する力 → 5点

※学校資料を基に編集部で作成。

は、容易なことではない。そのため、生徒が腰を据えて考える時間をつくるのが大事であると、進路指導主事の川島丈司先生は説明する。

「近年の生徒は忙しく、じっくりと考える時間が少ないと思います。本校では、全教師がチューターとして、1人あたり5人程度の生徒を担当し、放課後などに個別面談を行っています。面談では、



**進路指導主事**  
**川島丈司** かわしま・じょうじ  
教職歴8年。同校に赴任して8年目。



**進路指導部**  
**山川祐也** やまかわ・ゆうや  
教職歴7年。同校に赴任して6年目。

### 学校概要

- ◎ 設立 1924 (大正13) 年    ◎ 形態 全日制/機械科、自動車科、電気科、情報電子科、建築科、環境設備科/共学    ◎ 生徒数 1学年約240人
- ◎ 2021年度進路実績 (現役のみ) 4年制大は、東京藝術大、近畿大、広島経済大、広島工業大、広島修道大などに延べ39人が合格。短大・専門学校進学39人。就職144人。

「この仕事が合っていないそうだね」などと教師が答えを与えるのではなく、『どうしてその仕事がよいと思ったの?』などと生徒に問いかけ、考えさせるようにしています」

ある生徒は、川島先生の「なぜ?」という問いかけに答えるうちに、自分の思い込みに気がついたという。

「その生徒は、1年生の時から、ある企業を目指していましたが、1年間私と話し、自分の適性を考える中で、より自分に合った別の道が見つかったと、まるで思い込みから解きほぐされたような爽やかな表情で私に話してくれました」

変化の激しい時代においては、社会を知ることに加え、自分の強みや弱みを意識して、高校生活を過ごし、進路選択に臨むことが必要だと、川島先生と山川先生は考えている。